

岩手郡医報

高橋 孝先生書



朝陽の岩手山

Contents

- 卷頭言 新年を迎えるにあたって
- 岩手郡医師会主催 介護保険研修会
 - 1) 介護保険と主治医の役割
 - 2) 主治医意見書の記入方法
- 特別講演「これからの政局と政治課題」 NHK部外解説員
- 平成12年度岩手郡医師会忘年会
- 第13回岩手地区学校保健、安全、給食大会
- 第17回岩手県学校保健、学校医大会
- 第2回岩手県医師会学校医会幹事会
- 慶事 岩手郡医師会長高橋牧之介先生労勵大臣賞表彰
- 冬の風物詩 雪石裸参り
- 随筆『夢』
- 編集後記

高橋 牧之介

高橋 孝

及川 忠人

前田 一郎

上原 充郎

上原 充郎

上原 充郎

西島 康之

上原 充郎

西島 康之

2001.2.
2000.11. No.68
**岩手郡
医師会**

新年を迎えるにあたって

岩手郡医師会長 高橋 牧之介



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、ご家族お揃いで良い年をお迎えのこととお慶びを申し上げます。

記念すべき21世紀の到来に感慨もひとしお身のしまる思いがします。20世紀最後の昨年は種々のことがありました。Y2K問題で幕を開け、長引く経済不況の中で、有珠山、三宅島の大噴火等自然災害に見舞われ、政局不安は加速の一途をたどり止まるところを知らず、混迷した政治は何時迄続くのでしょうか。

岩手郡医師会は、役員をはじめ会員皆様のご理解協力により、会務並びに医師会活動は順調に推移しましたことを、改めて感謝いたします。

医療界の昨年を振り返ると、医療分野でもさまざまな出来事が発生し、医療機関も新たな対応に迫られております。

介護保険制度施行、診療報酬改定・薬価改正、医療事故多発、健康保険法・医療法改正など、20世紀から21世紀につながる制

度改正も行われ、来年早々にも新たな高齢者医療制度創設に向けた本格的審議が始動します。

21世紀の社会はどう変わっていくのか、社会保障制度の改革構造がどのような視点で進められるのか、興味は尽きないところであります。

昨年4月からスタートした介護保険では、介護度の判定にいささかの食い違いがあったようですが、当地域では順調に推移しております。今後とも実施にあたっては適切な介護認定、ケアプランの策定、適切なサービスの提供などと課題はあるでしょうが、主治医意見書の作成等医師の果す役割は極めて重要でありますので、よろしくお願ひいたします。

第19回参議院選挙は、全国医師の総意を集結して、国民皆保険制度を守り21世紀の医業経営基盤の確立のため、日医推薦武見敬三候補の必勝を期さなければならぬ。後援会名簿の100%達成にむけご尽力くださるようお願い申し上げます。

21世紀、21世紀と期待と緊張の心意気でしたが、いざ21世紀になってみるとなんの変哲もない毎日ですが、変化なき組織は衰退するといわれます。生き残っていくためには変わらなければならない。日本の将来のあるべき姿を頭に描きつつ、地域医師会は地道な地域医療活動を推進して住民の信頼を得ていくことがなにより大切であります。

岩手郡医師会は会員の英知を集結し、心新たに21世紀の第一歩を踏み出します。会員諸先生方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

介護保険と主治医の役割 話の要旨

岩手郡医師会副会長 高橋 孝



介護保険への主治医の係わりですが、介護保険が申請者の疾病、障害によって失われた機能より、残った機能を如何に申請者のQ.O.Lを高める方向にもっていくために絶えることのない継続的な援助を行い続けることが大きな目的であり、これを行う為には疾病、障害の予後を知らなければ解らない部分が殆どと言っても過言でありません。

初期のケアプラン作成までの道程の中の、ケアカンファレンスが時間の関係で省略されている現状では、意見書が唯一主治医が係わる大きなウエイトを持った大切な手立ての一つです。

主治医意見書は介護認定審査会においても、意見書が調査員の調査結果と、もし不整合があれば再調査を行い改めて一時判定のし直しをしたり、意見書の特記事項により、介護度の変更も許されているくらいに権威を持っている。

主治医は如何に多忙であっても主治医であれば、主治医意見書の記載、提出を拒むことはできないと考えるべきです。したが

ってこれからは、障害のある人、患者を診察する時は、勿論問題行動などは、家族、介護者の協力が無ければ書けないことがあります、常に主治医意見書が書けるような、介護の手間を考えた診察が必要になってしまいます。

しかし医師会、県から出ている意見書記載マニュアルを参考にすれば至難なことでは無いように思います。ただ介護保険は申請があってより、介護度、あるいは非該当にいたる認定結果を申請者に知らせるまでの期間が法律によって30日以内と決められているので、どうしても意見書が遅れる場合は市町村の係と連絡をとる必要があります。

第2号被保険者にあっては「特定疾患にかかる診断基準」に照らして確認し記載して下さい。

疾病、障害の状態を「介護の手間」と言う観点から見て、重くしようとか思わないでそのままの状態を記載して下さい。介護がもし故意に上げられた場合、同じサービスでも負担額が増えることもありますのでご注意下さい。

横文字に書き慣れている我々が角ばった日本語を奇麗に書くのは至難ですが、ペンの軸を太くしたり工夫して、読める字を書いて欲しいと言うのが認定審査会の強い要望です。又、特記事項欄を全くの空白にはしないで、無かったら「特記事項なし」とか書いてびし！と締めて書いて下さい。

医師会、県の講習会に出席したり、このように大事な事柄については必ずついてくる小冊子を読んでいるとそんなに難しいことではありませんので宜しくお願ひします。

これからも医師会活動にご協力下さいまことをお願いいたします。

主治医意見書の記入方法

岩手郡医師会総務担当理事 及川 忠人



意見書全体について

診療上の理由で意見書を認定審査会以外には提示しない場合は「同意しない」とする医師氏名については原則として本人の記載あるいはサインを添えることが必要です。

1. 傷病に関する意見

診断名：診断名のみでなく障害名をも併記するようにする。

老衰でも可であり、傷病名が無い場合は「なし」と記して良い。

症状としての安定性：痴呆疾患がある場合又その変動がある場合には特記事項に説明する。

介護の程度に関する予後の見通し：これまでの経過から3-6ヶ月後の見通しを記載する。歩行・日常生活動作・痴呆等の進行具合を勘案する。

障害の直接の原因になっている傷病の経過および投薬内容を含む治療内容：障害の原因傷病の再発の有無・悪化・改善など、投薬は薬剤名は必ずしも必要でなく、その薬効・留意点を記載する。

第2号被保険者の場合には15疾患等診断の根拠

2. 特別な医療(過去) 14日以内に受けた医療にすべてチェック

在宅・施設・医療機関の別に関わらず、看護職員によって行われている診療補助行為。(医師の医療行為、急性疾患への対応は含まない)

3. 心身の状態に関する意見

日常生活の自立度(寝たきり度)等についてランクJ・A・B・Cの理解が必要です。出来る出来ないではなく一般にしている状態を指すように判断する。出来るADLしているADLについて説明する。

また痴呆性老人の日常生活自立度のランク別を理解。

尚、軽度痴呆・中等度・重度痴呆は長谷川スケールにより簡単に診断可能である。

理解および記憶：記憶は記録または登録・保持・想起から成り立ちその保持時間が短いものを短期記憶、長期のものを長期記憶(エピソード記憶とも言う)。

日常の意志決定を行うための認知能力：身の回り動作の自立がポイントである。

自分の意志の伝達能力：コミュニケーション能力の判定。

問題行動の有無：現実的に把握出来ないことが多いことが問題となる。したがって家族あるいは介護者から別に聞き取りが必要である。

精神・神経症状の有無：

失語(Broca失語Wernicke失語、全失語)構音障害、せん妄(意識混濁・失見当識に錯覚・幻覚・妄想・精神運動興奮をともない、急性に経過する状態を指す)傾眠傾向・失見当識・失認(一定の感覚路・視覚・聴覚・触覚を通して対象を認知することが困難となること)失行(運動麻痺・失調・付随意運動等の運動

障害がなく又行うべき行為・動作を十分に理解していながらしかもその行為が出来ない)

身体の状態：麻痺・褥そうの程度は主として見守り、支援一部介助・部分介助・全介助がどの様なレベルで必要かを具体的に特記事項に記載すること。

4. 介護に関する意見

この項目は介護予防（介護を要する状態を引き起こさないために、また、介護を要する状態の進展を防ぎその軽減を図るために自助努力を機軸としつつ、保健・医療・福祉等の視点からなされる多面的なアプローチである）の視点が大変重要になります。

現在・発生の可能性の高い病態とその対処方針：介護サービス作成およびサービスを行う際の留意事項として重要であります。

医学的管理の必要性：要介護状態の軽減又は悪化防止のために必要なサービスをチェックすることが大切（訪問診療はもちろん歯科医師・看護婦・薬剤師・栄養士のチームケアの一員である。）

介護サービスを行うまでの留意事項：血圧管理（入浴時のチェックが重要）・嚥下障害・摂食障害・移動障害等への現場での留意点を指摘することが大切です。

感染症の有無：MRSA 保菌者であるかあるいは他の感染症の有無をチェックする

5. その他特記すべき事項

要介護認定に極めて重要な項目になりますので、介護に関わる医学的な意見あるいは全体的なリハビリテーション、予後等も合わせて記載して下さい。

認定の有効期間に関する意見：情報提供の希望（ケアプランを知りたい場合はその旨を記載する）把握していない、専門家の意見を必要とする項目を挙げる

サービスの必要性は ADL, QOL の向上、機能低下予防に必要であることを記載また今後の重要な留意点としては、認定の有効期間は短縮・延長が可能である介護の状況を具体的に記載することが大切である判読が困難な書き方はなるべくさけること

おわりに

主治医意見書は要介護認定審査に極めて重要な情報源になるのみでなく、ケアマネージャーおよび介護支援サービス担当者が介護サービスを実施継続する上で大変重い役割を担っておりますので、必要で十分な意見書の内容にする努力が一層求められております。

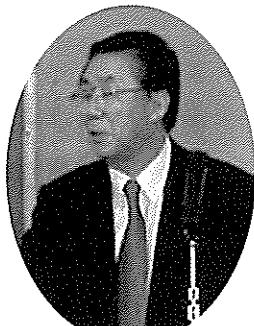


岩手郡医師会平成12年年末講演会

一特別講演一

これからの政局と政治課題

NHK部外解説委員 前田 一郎



会長挨拶



前田 一郎解説員

講演要旨

来年も総裁を森さんでいこうと言うことが、加藤さんの突然のクーデター未遂で雲行きが怪しくなって來た。加藤さん自爆の破片が森さんにも刺さった形となり、政局に大きく影響するであろう。政界の関心は来年誰が総理大臣になるかにあるが、今回破片をあびた森さんは少し怪しい情勢となってきた。

9月末の総裁選挙に、宮沢さんから庄池会代表のバトンを受けた加藤さんが、二卵性双生児の様な山崎さんと小渕さんに楯突く形で立候補した。これは一つには公明党と、創価学会と小渕さんの提携が濃密過ぎる。公明党と連立を組んでも部分連合で良いのではないかと言うのが加藤さんの持論と、もう一つは景気対策のもとに、これまで通りの公共事業のバラマキ放漫財政を続けて行くと、子々孫々に多額の赤字を残し、国の破産にも繋がりかねない借金大国となることへの警鐘を鳴らし、国家再生のために立候補した。

小渕さんにすればなんでおれに楯突き、おとしめるのかと、激しい言葉を投げかけ、組閣で加藤さんのライバルである河野さんを当てつけがましく、外務大臣にした。

歴史に「なになにであったなら」などと

言う仮説は禁物であるが、もしも加藤さんがあの時じっとしていたなら、今年の春小渕さんが倒れた時、ことによると加藤さんに総裁の白羽の矢が立ったかも知れない。そうした経過の中で森さんが、5人組の閣中の協議で棚ぼた式に総裁候補となることとなった。元来総裁は自民党の両院議員総会で、出馬をする人がいれば立候補し、選挙によって推薦者を決定するのが筋である。この両院総会時、加藤、山崎両氏は名乗りを上げるべきであった。しかし既に密室で協議し、早々と森さんの流れを作ってしまってあっては両氏の出る幕はない。この辺の恨みつらみが、加藤さんの心に残っていたと思われる。

そして総選挙が6月25日に行われ、自民党は38議席を失う大敗に終わった。にもかかわらず、総裁、幹事長がなんら責任もとらず居残った。そこで加藤さん山崎さんは、自民党改革の為に、二人を引きづり下ろすべきだと考えた。しかし森さんの弟分である小泉さんに「森さんはまだ総理になって3ヶ月でないか」と抨み倒され、小泉さんの友情に免じて立ち上がらなかつた。だから両院総会では執行部の責任追求は確かにあったが、森さんに止めろという話し合いはなされていない。

そういう経過の中で、再三世論調査がなされ、内閣の支持率はいずれも20%以下で、下降線をたどり、この内閣支持率からすると、いつ内閣が倒れてもおかしくない状況といえた。そういうしているうちに、政務秘書一人を、インターネットの専任にして、ホームページにくる情報を分析解読させる役割を任せた。政府や自民党に対する不平不満の増加とともに、加藤さんへの奮起をうながす声が増えて來た。

折しも野党は森さんの失言問題や支持率低下を理由に、20世紀のけじめとしておめおめと放置することは出来ない。セレモニーとしてでも、内閣不信任案を提出するという状況にあった。一部若手議員の声はあったが、小泉さんとの友情のために我慢する決意であったが、ついにクーデターは決起され、またも長老と実力者の内部工作にねじふせられる結果となった。これが加藤クーデターの真相です。（文責 坂井）

平成 12 年岩手郡医師会忘年会



高橋会長挨拶



乾杯の音頭をとる佐藤郁郎先生



懇親会風景



デュエットでカラオケ熱演の上原先生、高橋会長



柄内先生、高橋先生



山口先生、上原先生

第13回岩手地区 学校保健・安全・ 給食研究大会

学校保健担当理事 上原 充郎

上記大会が下記の通り実施されたので報告致します。今回は昨年以上の180名の参加者があり、とても盛大であった。

主 題 「21世紀を担う子どもたちが、自ら健康なライフスタイルを確立する健康教育をめざして」

主 催 岩手地区学校保健会

期 日 平成12年11月18日〔水〕

会 場 玉山村中央公民館 2階大会議室

内 容 研究協議

研究発表主題「葛巻町の子どもたちの歯科保健の向上を図るためにはどうあればよいか」

発表者 葛巻学校保健会 葛巻町立江刈小学校 養護教諭 田中 きくえ先生
葛巻町立星野小学校

養護教諭 木地谷 純子先生

助言者 岩手県教育委員会保健体育課指導

主事兼保健体育主事

菅野 由紀子先生

講 演 演 題

「わかりますか子どものサイン」

講 師 すずきひろこ心理療法研究室

室長 鈴木 廣子先生

研究発表は葛巻学校保健会の5年間にわたり子供達の歯科保健の向上のための取り込みを発表された。とても内容のこい立派なものでした。又鈴木先生の講演は、今の子供達の不登校等の事例を中心に子供のサインを見逃さないように、サインの意味すること、サインを受け取ること、そして子供への親の援助の仕方等をお話し下さいました。とても良いお話でした。今回は180人という多くの関係者が参加し、熱心にお話を聞いていたことが心に残ります。



第17回岩手県 学校保健・学校医大会

学校保健担当理事 上原 充郎

次の通り開催されましたので、報告致します。

日時 平成13年1月14日(日)午前10時

場所 岩手県医師会館 4階健康教育ホール

10:00~10:10

開会の辞／岩手医師会学校保健担当理事 穴戸 凰悦

挨拶／岩手県医師会会长 石川 育成

祝辞／岩手県教育委員会教育長 合田 武

10:10~11:40

一般演題

10:10~10:30

I 内科 座長 岩手県医師会学校保健担当理事 大津 定子

1. 藤沢町における児童生徒の実態
食生活を中心とした生活について
のアンケート結果と今後の課題

藤沢町学校保健会 佐藤 正子他

2. 学校検尿(平成元年~10年)における所有者の動向について

盛岡市医師会学校医部会検尿検討委員会 菅野 恒治他

10:30~10:40

II 思春期 座長 盛岡市医師会理事 黒川 賀重

3. 思春期における性教育の現実論
アンケートを通じて得られるもの
岩手県立高田病院産婦人科課長
秋元 義弘

10:40~11:00

III 眼科 座長 岩手県医師会学校医部会副部会長 湿美 健三

4. 中学生におけるコンタクトレンズ装用状況の実態

盛岡市医師会 小笠原 孝祐

5. 高校生の緑内障検診結果からみた高等学校眼科検診の今後のあり方

水沢医師会 鈴木 武敏他

11:00~11:40

IV 耳鼻咽喉科 座長 岩手医師会学校

医部会副会部会長 黒沢吏

6. 学校検診の事後調査についての検討

水沢医師会 樋口 明文

7. 耳鼻咽喉科健診事前調査票についての考察

盛岡市医師会 相上 輝昭

V その他 座長 岩手県医師会学校医部会幹事 岩井 利男

8. 小児に多くみられるウイルス性皮膚疾患：尋常性疣贅及び伝染性軟屬腫について

小瀬川皮膚科医院院長 小瀬川 玄

9. 学校における歯牙外傷の統計的観察とその対策について

盛岡市歯科医師会 宮田 右京

11:40~13:00

休憩(昼食)

13:00~13:30

総会

議長 岩手県医師会学校医部会部会長

鷹賀 研一

13:30~15:00

シンポジウム

テーマ「学校検診の変革期にどう対応するか」

座長 岩手医師会学校医部会部会長

1. 心臓検診について 白井 康雄

2. 腎臓検診について 大沼 一夫

3. 貧血検診について 半井 潔

4. 小児の生活習慣病検診について
—肥満対策を中心にして—
上原 充郎

5. 小児の生活習慣病検診について
—血清脂質検査を中心として—
阿部 昭弘

15:00~16:00

特別講演

座長 岩手医師会会长 石川 育成

『青少年の心の病理』

立教大学教授 町沢 静夫先生

以上のプログラムにより、実りある大会が盛会の内に終了した。

私はシンポジウム「学校検診の変革期にどう対応するか」で、岩手郡内小中学校88校に対し肥満に対するアンケート調査を実施し、それにもとづいて、岩手郡内の小学生の肥満に対する学校当局、小学生の感じていることをふまえ、校医としてのこれから対応をお話し致しました。機会があったら先生方に報告したいものと考えております。

第2回岩手県医師会 学校医部会幹事会

学校保健担当理事 上原 充郎

次の通り開催されましたので、報告致します。

日時 平成13年1月14日(日) 午前11時40分
場所 岩手医師会館 3階 中会議室

～次 第～

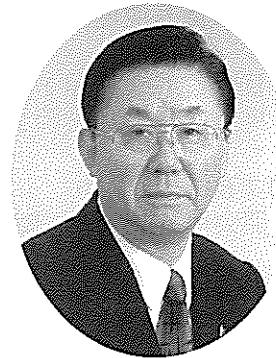
1. 開 会
2. 会長挨拶
3. 報 告
 - (1) 平成12年度活動報告について
 - (2) 第12回東北学校保健・学校医大会について
 - (3) 第31回全国学校保健・学校医大会について
 - (4) 岩手教育委員会との懇談会について
 - (5) 学校精神保健への取り組みについて
 - (6) その他
4. 協 議
 - (1) 平成13年度学校医部会事業計画(案)について
 - (2) 平成13年度学校医部会予算(案)について
 - (3) 第13回東北学校保健・学校医大会について
 - (4) 平成12年度学校医部会総会議事について
 - (5) その他

この中で平成13年度の学校保健事業計画が次のように発表され、総会において決定されました。

- 平成13年度学校保健事業計画
- (1) 東北学校保健・学校医大会の開催
 - (2) 岩手県学校保健・学校医大会の開催
 - (3) 児童生徒の心の健康への取り組み
 - (4) 思春期保健への取り組み
 - (5) 小児期における生活習慣病予防対策
 - (6) 学校保健委員会活動の推進
 - (7) 幼稚園・保育園医の組織化
 - (8) 学校保健関係団体との連体

慶 事

高橋牧之介会長労働大臣賞表彰 県医療功労賞



高橋牧之介会長におかれましては、この度長年にわたり労災保険診報酬審査委員会委員として、労災補償給付の適正かつ公平化の推進に貢献され『労働大臣賞表彰』を受賞され、『県医療功労賞』も受賞されました。受賞誠におめでとうございます。先生には、永きに亘り地域住民の信望に応え、地域医療の向上に尽力され、その郷土愛と人間愛に対し、会員一同心から敬意と祝意を表するものであります。先生の受賞は私ども会員の誇りであります。この度の受賞を契機に健康には充分ご留意され、地域医療・私ども岩手県医師会の発展向上のため益々のご活躍をご祈念申し上げます。

(文責 西島 康之)



裸参り

零石町 上原 充郎

零石町の今年の裸参りは1月21日午後1時にスタートし、零石町メインストリートを1.2kmにわたり歩行祈願した。大正時代に始まったこの行事は時々中断したが、昭和55年、零石町青年団体連絡協議会により再興され今年が22回目である20才代前半がほとんどであるが、30~40才代もいる。

参加回数は1年目の者から10回目まで総勢31名である。今回はきつい裸参りであった。風は強い、雪はもさもさ降る、路面はぐしゃぐしゃ、それでも1.2kmの道程を2時間かけ“無病息災”的ぼりを掲げゆっくり歩行祈願を達成した。来年は還暦で3回目の祈願をやりたいものと思っている。



隨筆『夢』

西島 康之

私の2001年の初夢は……

最近、私はあまり夢を見なくなってしまった。若い頃は度々夢を見たものである。時には、夢を楽しみにして眠りについた夜もあったような気がする。しかし、好みの夢を自由に見るのは不可能である。何者かに追い詰められ、あわやという時に目が覚めて助かったという恐い夢。家族と一緒に何処かで何かをしたという楽しい夢。そして、悩ましい生息い夢など、夢は夢まかせである。

確かに夢は日常の深層心理を反映していると言われるから、そう簡単に見たい夢を見るというわけには行かないものだろう。それならば、日頃から、あるいは就寝前に、現実にはとても手の届かない事柄などを強く念じておれば、そのような夢を見ることができるような気がするのである。若かりし頃、憧れていた女優とそのような夢を見たことがあるが、あれはその証ではなかつたかと思う。

夢は始まりと終わりがはっきりとしない。その夢の続きを見ることができない。そして色が付いていないというのが夢の特質ではないかと思っている。

私は大怪我をした時（肋骨骨折）、あまりの痛さに気を失ったことがある。最近の科学技術の進歩は秒進分歩と言われているが、睡眠中の夢を記録できるような装置が開発されたら面白いのではなかろうか。

昨今の世相は、先の見えない不況、底なしの官僚汚染、腐敗と政界不信。ことにも少年達の相次ぐ凶悪犯罪と、なすすべを知らぬ社会の断層、亀裂といった『病める日本』の姿が背景にあるとき、楽しい夢は期待できそうにないが。

さて、私の2001年の初夢は、いかなることになるか楽しみである。

編集後記

○21世紀の幕開け、なにか大きな変革を期待した心とはうらはらに、何ごとも無く足早に時が過ぎ、岩手郡医報新年号発行の時期を遅らせ、巻頭言の会長の新年の挨拶も色褪せてしまいました。投稿していただいた会長先生と会員の先生方に心からお詫び申し上げます。

○今回は郡医師会の行事が少なく、昨年の忘年会の際の講演会と、懇親会の報告が中心となりました。特別講演をいただいた前田先生から抄録をいただきていなかつたために、これの編さんがあつた。これからは特別講演の先生方からも、簡単なサマリーをいただけたならと感じました。

○学校保健担当理事の上原先生からは3つの会の報告事項をいただきました。ありがとうございました。

○高橋会長は労働大臣賞表彰と県医療功労賞の2つの表彰を受けられましたが、ご本人はこの慶事掲載を辞退されました。副会長の西島先生に原稿を書いていただきました。

○上原先生の裸参りは文章より、まねの出来ない勇敢な姿の写真に感動しました。

○会報の中で一番読んでいただけるのは「隨筆」だろうと思いますが、今回は投稿がなく心配していましたが、西島副会長が投稿してくれました。会員の先生方の隨筆その他の投稿を心からお待ちしております。

○今回も編集委員会を一度も開かずになりました。編集委員の先生方に心からお詫び申し上げます。次号発行の前には開催したいと思いますので宜しくお願い致します。

(文責 坂井 博毅)